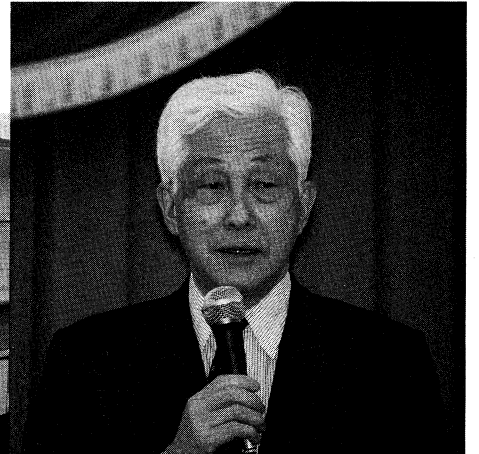


JIA 長野県クラブ 35

社団法人 日本建築家協会

1999. 3. 1

▼建築家資格制度勉強会 (1/28、長野市内)



▲椎名政夫氏
本部建築家資格制度推進委員長



社会に開かれた活動を

副会長 高橋重徳

私達を取り巻く様々な環境は一段と厳しい状況にあり、会員の皆様は各々努力されておられることと思います。その厳しさの原因は単に経済状態だけにあるのではなく、根本的な社会システムの変化に伴った建築環境の再構築を求められているところにあるのではないのでしょうか。私達の会、および私達自身が、将来に向けて一步一步改革、改善を迫られているのは当然のことと思います。

JIAは各地に組織された地域会を中心に据えて、地域にも重点をおく考え方の方向に成りつつあり、私達地域会の役割は重要度を増すと共に、その成果が期待されるようになりました。一方では東京の地域会は組織化が未だに難しく、苦慮しているところです。こうした状況は、地方の地域会の活動の方向性についても何らかのヒントを教えてくれているのかもしれません。

また、平行して組織全体の見直し、特に支部役員定数の削減問題においては、新しい形での本部、支部、地域会各々の役割を明確にし、会全体の活性化を踏まえ、効果的な組織のスリム化を行うべく具体的な実施に向けて努力しているところです。

JIAの会員数は、正会員、賛助会員を問わず、ここ

数年来減少傾向が続いていますが、単なる経済的理由だけでなく、組織として進む方向に迷いを生じていることにも関係がありそうです。今後の会の運営方法にはそうした対応も迫られることになるでしょう。

さらに、全国大会や総会などは別としても、毎年開催されるアーキテクトガーデンは新しい理念のもとにスタンスを変えた工夫が必要です。これらも現在、一般市民の参加ができる開かれた新たな企画を検討中です。

また、いろいろの経過を経て昨年より高まりつつある建築家資格制度についても、すでに静岡地域会、近畿支部が自主認定制度に向けてスタートしました。こうした状況も私達の社会的存在価値をアピールする一石になるかもしれません。

私達は地域会の活動は勿論、地域でのまちづくりや、保存問題、その他のボランティア活動なども含めて、より社会的にかつ積極的に参加し、あらゆる機会をとらえて、市民サイドに立ったスタンスをもって、開かれた姿勢で活動することが必要であり、現在その真価が問われる正念場を迎えているのではないのでしょうか。



建築家資格制度 勉強会

関 邦 則
（有）関建築+まち研究室

既に8年以上に渡って建築家資格制度の研究に携わってこられた椎名政夫先生をお招きして、懸案だった勉強会が開催された。出席者は約25名と少なかったが、講演は明晰な中にも熱のこもった内容で有意義であった。

わが国では約50年前に建築士法によって建築士資格が定められているが、諸外国でいう建築家資格とはだいぶ趣を異にしているらしい。それに対する素朴な問題意識から議論が始まったのはJ I Aの前身時代にさかのぼる。団体内部での研究を経てJ I Aとなり、諸外国の調査、自主認定の提唱などの過程を経て行きつ戻りつしながら、今日では第三者認定による制度化を目指しているようであるが、まだまだ継続中の幅広く奥深いテーマになっている。現時点では建設省によるフレームワーク委員会やU I Aの指針を待っている段階で、近い内に何らかの方向性が示されることになりそうだ。

この問題を通して考えさせられることがいくつかある。そもそも「建築家」とは何かと改めて思う。我々の集団は自称建築家をもって成立しているというのが現状であるが、どういった基準をもって建築家を規定するのはなかなか難しい。建築士の中のエリートを建築家と呼ぶのか？技術だけでなく資質や倫理を含めた資格だとすればふさわしい資質や倫理とは何か？専門建築家と兼業建築家の相違はどこか？建築家の責任とは何か？素朴で楽天的なナルシズムや自己主張だけでは社会的に認知される存在にはなり得ないのではないか。

また、建築家資格が制度化されると何がどう変わるのがわかりにくい。単に名称が変わり、社会的地位が担保されるというような単純な問題ではないと思う。建築家と建築士の区別をどうするのか？設計監理と設計施工の境界はどうなるのか？構造や設備の専門家との関係をどうするのか？また設計や監理の発注の仕組みはどう変わるのか？大袈裟に言えば日本の建設産業構造が根底からくつがえされるような大きな変革を伴うことになるかもしれない。資格制度化の主張にはこうした社会システムに対する壮大なビジョン提案がないと説得力がないのではないかと思う。一般の人たちからみてもますます理解しにくい方向にいつてしまうのではないか。

私には建築家資格問題がますます身近なものに感じられた。皆さん、これは他人事ではありませんよ！



この指とまれ！

(仮称)建築家カタログ出版中間報告

松 下 重 雄
（有）みすゞ設計

(仮称)「建築家カタログ」の中間報告です。

3年程前から(仮称)「建築家カタログ」検討特別委員会(倉橋委員長、久保田三代副委員長)によってその骨子が固められました。当初は全員参加を目標にしていたのですが、費用負担の問題などから、全員参加では進められないことがわかりました。そこで、自主参加方式として希望者を募ったところ、30名の参加表明がありました。住宅に関するトラブルや相談が全国的に取り上げられている状況下でもあり、今こそ私達が地域社会に情報発進をし、「住まいづくり」を通じて社会貢献を果たす時であることを話し合いました。その結果、「住まいづくり」に的を絞り、自費出版の店頭販売を目指すことに決めました。

今年度に入り、組織は検討特別委員会から会員委員会担当へ移行しました。事業を実施し易くすること、出版までのコミュニケーションにより会員同志の絆を強くすること、出版後は本を見てJ I Aの仲間になる人もでてくるという会員増強運動としての効果を期待してのことです。

その後は北・東・中・南信の各地域で編成されたテーマごとの「班会」が開かれ、内容の検討が続きました。

昨年秋からは、出版のコーディネーター役としての「編集者」の選定段階となり、去る1月16日に「文屋」木下豊さん(長野市)にお願いすることが決められました。

“あなたの身近にも「住まいづくり」を任せられる建築家がこんなにありますよ”と私達の存在をアピールしながら、家を建てたい人々のためのメリットとなる正しい数々の情報(J I Aや職能についても)をわかりやすく、楽しく伝えられる美しい本にしたいと30名が頑張っています。

厳しい経済状況で社会が混迷する時代こそJ I Aのメンバーが活躍する時ではないでしょうか？この出版事業を通じて会員の一層の結束と社会参加を呼びかけたいと思います。“この指とまれ”と30名全員が今後1名でも参加者が増えることを願っています。参加希望と御意見等は事務局F A Xへお寄せ下さい。賛助会の皆様には、今しばらく暖かく見守って下さることをお願い申し上げます。



近頃思うこと

竹花 彰 男
彰建築設計事務所

最近、町を歩いていて目についてしまう物があります。公園に置かれているベンチやブランコ、フェンス、門柱、看板の支柱、附属の物置の屋根や外壁、コンクリートで造られた工作物等。いったい、どんな所が目についてしまうのかと言うと、色のあせたサビの出ているベンチや、タイルの2~3枚剥がれている壁、板の割れている塀などです。それらがいつ頃造られ、設置されたものかはともかく、その後1度も手入れをされないで、放置されたままになっている状態の姿を見ると、古さと言うより、汚さを感じてしまいます。看板本体は、きれいにリフレッシュされているのに、それを支えている柱は目に入らなかったのか、以前のまま構造的な役割のみを要求されたみじめな姿で建てられています。

私は、今まで新しい建物を造ることを前提としてしか、建物を考えていなかったように思います。

今、景観という言葉をよく耳にしたり、各地でシンポジウムが開催されていますが、既存物のリフレッシュということは、まったく話題になっていないように思います。住み良いきれいな町をつくることはマクロ的には、色、デザイン、周りとの協調性や看板等の規制という問題があると思いますが、ミクロ的な部分では、自分達の身近な一番目に触れられている部分の見直しをして、リフレッシュするのも大切ではないでしょうか。

もし、このベンチがきれいにペンキで塗り直されたら、剥がれ落ちたタイルが元の位置に補修されていたら気持ちいいと思います。ほんの少し手を加えるだけで、まだまだ必要とされたり、使える物が、身近にいっぱいあるように思います。

古さという言葉は、いろいろな意味に解釈されそうですが、決してマイナス的な意味の言葉ではないと思います。古さという言葉は私にとってはとても興味のある、魅力的な言葉なのです。

以前、私はオートバイが好きで、学生の頃から最近まで乗っていました。けっこう年式の古いバイクも乗りましたが、私は性能よりも外観のデザインで選んでいました。古くても、こまめに手入れをして、ピカピカにしていた時の気持ちの良さを思い出します。

お知らせ

第7回文化講演会

講師／佐々木睦朗 氏 (構造家)

日時：3月23日(火) 15:00~17:00

会場：ホテル ブエナビスタ

(松本市本庄)



建築について

諏訪部 晴 夫
ヤマキ工業(株)

新しい21世紀の人間の活動が自然及び地球と調和することを計り、住み働き余暇を生き生きとできる環境をつくるのが、建築の仕事をしている人々の願いかと思えます。

情報通信網などの要因により、企業活動等は急速に一本化しています。その一方で、地域の独自性が大切にされているときでもあります。

建物には様々な側面があり、社会性・機能性・芸術性等が満たされて、よい建物と言えるわけです。また、まちづくり・村づくり・都市計画・国土計画も建築の範囲に入ります。年月が建築を育む所もあります。

私自身は、社会性・機能性・芸術性、また一個の建物からそれぞれの国づくりまで一貫している大切な観点は、自由と全体的統一の調和ではないかと感じています。全体的な統一がきちんととれていても、個別の活動に一定の自由がなければ無味乾燥・活力が多く分野において出てこないでしょう。個が全く自由であれば、ばらばらになってしまいます。個がしっかりとした独自性を持ちながら、全体としてはしっかりつながって調和している多くのレベルでそんな環境を創ってゆくのが建築の生命だと思っています。



平成不況に思う

大井 芳 也
(株)山二

デフレ不況が日本列島を覆う中で、世紀末の1999年をむかえました。夜明前が一番暗く寒いと言いますが、正に暗く厳しいトンネルの中かと思えます。ここ数年、私達が個人マネーの世界に身を置きつつ体験してきたことを一言で表現すると、常識の崩壊であったと思います。建設業界に身を置く私達にとって、生死をかけた厳しく明りの見えない戦いが続くと思えます。全治まで3年とも言われています。無謀とも思われる価格競争で品値の低下は、公然の事実とも思えます。その中で、設計事務所とメーカー、専門業者との関係もお互いに一考すべく時なのではないでしょうか。価値観の違う時代ではありますが、車社会のように毎年モデルチェンジが繰返され、それにホイホイ乗る図式も、見苦しく思います。社会全体を動かす基準そのものが揺らいでいるのです。自らのニーズも少しは疑ってみてもいいのではないのでしょうか。頭から「儲けてやろう」と自滅するより相手に喜んでもらうことを考えれば、それは必ず自分に返ってくるものだと思います。暗やみの中から光の見える夜明前になることを期待しております。

クラブインサイド

第7回幹事会

新井 優

1月28日、山王共済会館で開催。本部、支部報告では「保存問題東京大会」(2月20日～21日)の案内、あすなろ巡回展に対する地域事業助成費の支給が報告された。議事では、第7回文化講演会(3月23日、松本市「ブテナビスタ」にて、佐々木睦朗氏講演)案、学生卒業設計コンクール'99案、通常総会(5月18日、長野市「国際21」にて)案が承認された。

建築家資格制度勉強会

須田 考雄

1月28日、講師に椎名政夫氏を招いて山王共済会館にて開催。正会員25名が参加し、これまでの経過や現状、今後の課題についての話を聞いた。懇談会も和気あいあいと進められた。

(仮称)建築家カタログ作成部会

松下 重雄

11月10日、12月10日、1月16日と3回にわたり「編集者」選定の会合を行い、慎重にかつ熱心に討議しやっと決定。1月28日には正副委員長、部会長、各班長で今後の対応策についての協議を行い一歩前進をみた。

第3回事業委員会

片倉 隆幸

1月28日、山王共済会館にて開催。第7回文化講演会の日時、講師の確認などを行った。パンフレットの印刷をすることにし、テーマ等のレイアウトを決めた。

クラブアウトサイド

第3回地域サミット

出澤 潔

昨年11月27日開催。JIA大会'99鎌倉の件、アーキテクツガーデン開催の件、その他盛り沢山の議題があった。JIA大会については地域会の積極的参加が要請され、地域会から選出された拡大実行委員により議論を進めることとした。

第12回地域組織整備委員会

出澤 潔

昨年12月1日開催。第2回全国地域会合同会議の統括、自治体総合フェアへの次年度の取組み、地域事業助成費申請の件、地域会未設置地域との協議について審議した。

第10回保存問題委員会

依田 政司

1月14日開催。2月20、21日開催が決まった「保存問題東京大会」にむけて、実行委員会の立上げと、大会のプログラミングそして準備検討等が議題だった。そのほかに「野尻湖ホテル」問題については、状況調査等を私が依頼されたが、この問題については当クラブの皆さんの協力によって進めていきたいと思っております。

第2回選挙管理委員会

須田 考雄

12月17日開催。長野地域会関邦則氏を含め、19名全員の資格審査の結果、役員選出規定、役員選挙細則による立候補者、推薦者の資格が的確であることを確認。選挙結果の告示はBulletin1/15発行号。

第6回支部役員会

高橋 重徳

1月13日開催。総務委員会の答申を受け「支部役員定数削減提案」について、支部長より幹事数を10名削減すること、新たな地域会体制への対応、実施時期などについて説明があった。5月の総会で承認されれば、2000年4月より実施したいとの意向。地域会の意見を再度求めて検討することを確認。実施されれば、各地の役員は現行の2名から1名になる見込み。

第3回JIA大会'99鎌倉実行委員会

上村 保弘

1月20日開催。地域会からの拡大実行委員の選出、大会・基調講演のテーマ、役割分担による各課題の進捗状況について発表。大会テーマ案は「古都鎌倉で建築を語ろう」。基調講演は1部が養老孟司氏、2部が山本理顕氏、北沢猛氏に依頼する予定。

第1回アーキテクツガーデン'99実行委員会

関 邦則

第1回委員会が1月26日に開催され、今年は9月2日～8日をコア期間とし、銀座地区で分散会場方式(松屋・イトーキ・イナックス・松阪屋・建築家倶楽部・タチカワ・交詢社等)で開催する方針を決定。支部最大の行事として一般を対象にした外向け事業とする。

第9回総務委員会

高橋 重徳

1月27日開催。役員定数削減問題は3月の役員会で決定する予定。『東京の地域会』については、JIA支部保存問題東京大会をきっかけとして検討に入りたい。財政問題は昨年より幾分改善されたが、厳しい状況にあり、会費納入にご協力を頂きたい。

支部常任理事会

関 邦則

2月17日、建築家会館にて開催。アーキテクツガーデン、JIA鎌倉大会、東京の地域会設立準備会、役員定数削減問題、指定法人化問題、財務状況について報告や協議が行われた。支部総会は5月20日に決定。



JIA
JIA長野県クラブ

編集人 関 邦則
発行人 出澤 潔
発行所 JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026 (232) 3897
FAX 026 (232) 5303
作成 新建新聞社